

福祉型障害児入所施設における 構造化実践例



香川県立川部みどり園
わかば児童課 児童重度棟
児童指導員 七條 有加里

発達障害児等支援対策事業

- 川部みどり園では、自閉症などの発達障害がある重度の知的障害児が増えてきており、その障害特性である強度行動障害への対応が課題となっていた。このため、構造化療育やTEACCHプログラムなど専門的な支援技術を採用し、行動障害が減少するような支援の在り方を構築する。
- 実施場所：わかば児童課北棟（児童重度棟）
及び保育室

構造化とは

- わかるように伝えるための構造化
 - 物理的な構造化
活動と場所を対応させる。
 - スケジュールの構造化
今の活動が終わったら「何があるのか」をわかりやすく伝える。
 - ワークシステム
今からする活動が、「なんで」、「どのようにするのか」、「終わったら何があるのか」を伝えるために行う。
時間の概念が分からない場合には、課題の量で調整。
 - ルーティーン
いつも同じ手順で行う。
- 効果
見通しが持て、不安や混乱が予防され、安心して落ち着いて行動ができるようになる。
- 気をつけるべき点
こちらの思うとおりに動いてもらうためのものではない。

参考文献: 坂井聡・宮崎英一著 『ちよこっとコミュニケーション』
Gakken, 2009, P42～P 47.

物理的構造化の実践例

活動と場所を対応する

・片付け場所を示す

扉



内部



棚の分類
個人用



療育用



入れ物



パズル



プレイルームや遊び部屋の押入れの棚におもちゃを収納、おもちゃの選択、遊び、片付けが一つの空間でできる。

遊んだ後は自分で片付けをしてもらう。

扉と内部におもちゃの写真を貼り、場所を示す。

棚を個人用、みんな用に分ける。

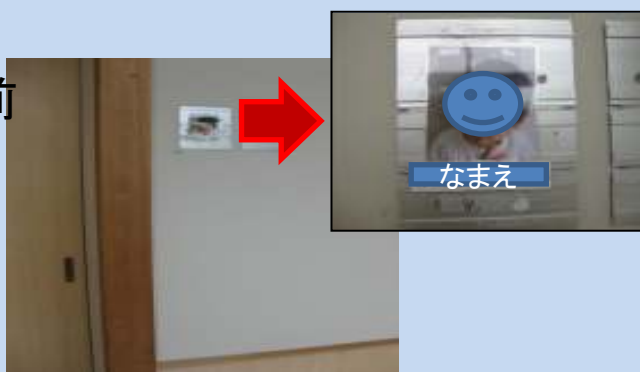
みんな用は、本、おもちゃ、療育用おもちゃ別に分ける。

・誰の所有かを示す

下駄箱



居室前



子どもの理解にあわせて、名前や写真、マークで自分の場所を示す。

・居室の使用内容を示す

「あそぶ」



「音楽を聴く」



「着替え」



「テレビを見る」



裏表

居室を着替えや、遊びに使い分けるためにプレートを吊し示す。

・片付け順序を示す

・場所を示す

下校後の
片付け



下膳

置き方の見本写真



トイレのスリッパ



下校後の片付けや、食堂の下膳コーナー。動線に沿って、写真で示されたとおりに入れると、片づけができる。

スリッパの位置を線で囲って示す。

スケジュールの構造化 次に何があるか伝える

(1) 日課



上から朝、昼、夕の3パターン。
左から右へ時間が流れる。
時計を同じ平面に置く。

(2) 勤務表



当日の勤務者、予定を
掲示する。
毎日のカードの交換は児童に人気。
幼稚園送迎の担当者を
マークで示す。

(3) 個人用



イラストや写真、文字のものがあり、剥がせるタイプがある。

ルーティン

いつも同じ手順で行えるよう補助する

- ・動作の順番、回数を示す。

入浴



はみがき

- ①卓上めぐり
- ②掲示
- ③カード綴り



トイレ



洗体



トイレ、入浴、歯磨き、手洗いなどについて、動作や回数を示す。卓上めぐり式、手に持つカード式など児童に合わせて利用する。

トークンシステム

無理なく課題が達成できるようにポイント制の活用

- ・目標を達成してごほうびを手に入れる。

シール



目標を達成できたら自分でシールを貼り、貯まるとごほうびがある。カレンダーや手作りの表を使用。

小遣い形式



シールの代わりにおもちゃのお金を貯金する。